

平成31年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立みつば幼稚園）

教育目標	
豊かな心やたくましく生きる力の基礎を培う ～いろいろな人とかかわり、夢中になって遊ぶ子どもの育成～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年10月30日	みつば幼稚園学校運営協議会（みつばの森）
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">子ども一人一人が人とかかわる中で、どのように心を動かしているのかを見とり、人とのつながりを意識しながら個々に応じた援助や環境構成を行う。言葉で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を大切にし、自他の思いの違いを感じたり、葛藤したりする姿を受け止める。園全体で保育や遊びの計画を考え異年齢同士が互いにかかわる環境づくりや意図的な援助を行う。登園時に笑顔で挨拶し、気持ちよく子どもを迎える教師との信頼関係を築き、教師に見守られている安心感を基盤に、集団生活の中で自分の世界を広げ、自己を発揮していくように自己肯定感を育む。夢中になって戸外で遊んだり体を動かしたりすることができる環境構成を行う。（健康）教師が仲間になって活動したり、他の学年の子どもや未就園児に親しみをもってかかわったりして、子どもが周囲の人に関心を持ったり安心してかかわりたいと思えるモデルとなる。（人間関係）季節に応じた花や野菜など土づくりから収穫までを子どもがかかわる栽培活動を行い、感動する心や生き物や自然を大切に感じる直接的な体験ができるようにする。（環境）

- ・学級で1日を振り返る中で、情報や思いを共有、共感しながら、自分の言葉で話す喜びを感じたり、友達の話を聞いたりすることを楽しめるようにする。(言葉)
- ・子どもが心を動かし、自分なりに表現する喜びを十分に味わうことができるよう、教材や環境を工夫する。(表現)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案をもとに、日々の保育の振り返りと子どもの姿の変容をとらえ評価する。(週案の振り返り)
- ・園全体での保育の振り返りと評価、事例の検討。

保護者アンケート

- ①子どもは幼稚園に登園することを喜んでいる。 ②子どもは身近な人（先生や友達、周りの保護者等）に挨拶をする。 ③幼稚園教職員は笑顔で挨拶をしている。
- ④子どもは幼稚園で色々な人とかかわり、感情経験を豊かにしている。（笑う・怒る・困る・悲しむなど）
- 子どもは幼稚園で⑤クラスの子どもや⑥他のクラスやうさぎ組ひよこ組の子どもにも関心をもっている。 ⑦子どもが、他のクラスの子どもや担任以外の教職員とかかわることは、豊かな心の育ちにつながる。 ⑧幼稚園は、季節を感じる栽培活動に取り組んでいる。子どもは草花や虫など身近な自然に関心をもったり、心を動かしたりしている。 ⑨子どもは幼稚園で体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。 ⑩幼稚園は、子どもの思いや表現を、受け止めたり共感したりしてかかわっている。

中間評価

各種指標結果

○各クラスで週案の振り返りや保育の記録を行い、幼児理解を深める取り組みを積み重ね、次の保育に必要な環境構成や援助を、翌日・翌週の保育に反映できるよう努めた。

○園全体で保育の振り返りや評価を行い、各クラスの取組を共有しながら環境構成の工夫を行った。異年齢とのかかわりから、あこがれる気持ちや、気持ちの葛藤などとられた。

○保護者アンケート (%表示 : Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと言うとそう思う Dそう思わない)

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------|
| ①A74・B21・C4・D1 | ②A36・B33・C19・D12 | ③A86・B14・C0・D0 |
| ④A79・B20・C1・D0 | ⑤A67・B21・C10・D2 | ⑥A38・B30・C24・D8 |
| ⑦A85・B15・C0・D0 | ⑧A86・B13・C1・D0 | ⑨A86・B13・C1・D0 |
| ⑩A76・B22・C2・D0 | | |

自己評価

分析（成果と課題）

- ・進級・入園から担任や園が幼児とのや保護者・家庭と信頼関係を築き、安心の基盤はできつつある。（アンケート①A評価 90%）しかし、相手とのコミュニケーションの第1歩である挨拶はアンケート②AB評価7割弱、D評価12%だ。笑顔で目が合うなど言葉以外での挨拶やかかわりは見られるので十分に認めながら、気持ちよく挨拶をかわせるよう取り組んでいきたい。
- ・様々な人とかかわっているが、自分の思いを言葉で伝えることや人の話を聞く態度や気持ちに課題がある。
- ・同年齢異年齢様々なかかわりにより多様な心の動きや育ちが見られた。アンケート⑦はAB評価が100%であり保護者も様々な人との関わりが心の育ちにつながると考えている。しかし、アンケート⑤ではABが7割を超える、クラスの子どもに関心を持っていると感じているが、アンケート⑥他のクラスの子どもへの意識はCD評価が3割を超えている。新年度の出会いからまずはクラスの友達への関心が中心だろう。今後は教師との信頼関係やクラスの友達とのかかわりをもとに、関心やかかわりが広がるよう取り組みを進めたい。相手への意識をもち、学年を超えてかかわる場や環境の工夫を考えたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊具や用具の工夫や、教師が遊びのモデルとなることで、やってみたくなる気持ちが高まっている。(アンケート⑨A 評価 86%) 次のめあてを自分なりに持つ姿や、満足感・充実感を味わう姿もある。年長児の姿を見て年中・年少児も意欲的に体を動かし遊び姿が見られる。一方で、失敗することを避ける傾向もあり、その葛藤に向き合うための援助の工夫が必要である。 ・季節を感じる栽培活動に取り組み収穫を楽しみ喜びを感じた。(アンケート⑧A 86%) さらに成長への関心や大事に思う気持ちを培っていきたい。植物に集まる虫への関心も高く春夏ならではの活動ができた。虫捕りを通じて異年齢のかかわりや図鑑など読書活動につながった。 ・アンケート⑩A 76%だが、さらにのびのびと自己を発揮でき、自己肯定感が培われる活動の展開を志したい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園時の「笑顔で挨拶」を継続。 ・異年齢がかかわる場（行事で参集する場や園外保育で並ぶ場など）の工夫と、好きな遊びでのかかわりでの幼児理解と援助の工夫 ・降園前のひとときやクラスでの活動時、子どもにわかりやすく、聞きたくなる取り組みの工夫 ・週案や記録の振り返りや事例検討により、夢中になって遊び、失敗してもまたやりたいと思える遊びをつくる。遊具や用具など環境を見直しや見守り支える援助の継続。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案による振り返り（挨拶・異年齢とのかかわりの視点に着目） ・保育の振り返りと事例検討により異年齢とのかかわりによる育ちや夢中になる姿をとらえる。 ・降園前のひとときの過ごし方の振り返り

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいをもった保育の取組により、子どもたちは遊びの中で学びを得ているとわかる。 ・「笑顔で挨拶」の取組に理事や委員も園を訪れた時に心掛けたい。名前を呼んで挨拶したり何かわりたいと思うが、名札がない園児もいる。名札もかかわりのきっかけとなるので毎日胸につけるようにしたほうが良い。
-----------------------------	--

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p>

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- 接続期カリキュラムの実施と振り返りによる改善とともに、ねらいを意識した年間交流計画の作成と交流活動の事前・事後の話し合いの充実。
- 近隣の小中学校との交流と保育公開。また、授業参観・合同研修へ参加し、広い視野から「幼児期に育みたい資質・能力」「学びに向かう力」の理解を深める。
- えほん室の開放や絵本貸出し、「親子で絵本！」を活用した家庭との連携。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 交流活動の事前事後の話し合いから子どもの姿や、互いのねらいについての振り返りや、接続カリキュラムの見直し。また、「幼児期に育みたい資質・能力」「学びに向かう力」についての学びや、円滑な接続についての意見交換。
- 絵本貸出冊数の月間の推移状況と「親子で絵本！」の活用状況の把握。

保護者アンケート：

⑪幼稚園のえほん室や絵本貸出は、親子で絵本に親しむ場やきっかけになっている。

⑫幼小交流活動は、子どもの心の育ちにつながる。

⑬子どもは地域の小中学校や児童・生徒に、関心や親しみをもつようになってきた。

中間評価

各種指標結果

- 新町小学校と年間を見通した計画をたて、交流活動の事前事後の話し合いで幼・小が互いの子どもの姿を振り返り意見交換を行った。
- 上京烏丸プロジェクト(KKP:中学校区保幼小中連携)による夏季研修会参加。他校種と意見交換
- 4月から9月の絵本貸出合計1521冊。一人一月に4冊程度借りている状況。「親子で絵本！」ノートをノーテレビ・ノーゲームデーに担任が確認。2冊目は14人。

○保護者アンケート (%表示 : Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと言うとそう思う Dそう思わない)

⑪A70・B27・C3・D0 ⑫A76・B22・C2・D0 ⑬A41・B36・C18・D5

自己評価

分析（成果と課題）

- 幼小交流をもとに互いの教育活動のねらいを理解し子どもの育ちについて話し合い、交流による児童と幼児のつながりや相手を思う気持ちの育ちをみとった。「育みたい資質・能力」や円滑な接続についてさらに深める必要がある。
- 保護者も連携による心の育ちに肯定的だ。(アンケート⑫A76B22)しかし、実感は少ない。(アンケート⑬A41B36C18D5 年少児は評価が低い傾向) 1学期は交流活動が始まったばかりで相手を知る期間が必要と考える。今後子どもも保護者も地域の小中学校への関心がもてるよう小中学校と交流を積み重ねる。
- 保育中の絵本読み聞かせや絵本貸出、親子でのえほん室利用など、絵本にふれる機会は保護者も大事だと考えている。(アンケート⑪A70B27)しかし、貸出状況は平均で一人が一ヶ月に4冊程度であり絵本を読む機会を増やしたい。また家庭による利用の差や、長時間預かり保育の家庭のえほん室利用が課題。

分析を踏まえた取組の改善

- 幼小交流の事前事後の協議の視点を共有し、育みたい資質能力や円滑な接続について深める。
- 子どもの遊びや季節に関連する絵本や子どもに読んでほしい絵本を見やすく整備する。保育で取り上げた絵本、子どもに人気の絵本を家庭へ発信する。・長時間預かり保育時間児への絵本貸

	出の見直しをはかる。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流・連携の振り返りと記録の整理。 ・「親子で絵本！」の取り組みの振り返り ・長時間預かり保育児の絵本貸し出し状況 ・絵本ボランティアによるえほん室環境整備への意見聞き取り
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流で卒園生が園児とかかわる姿から、育ちを感じた。 ・絵本ボランティア活動の継続。 ・未就園児保護者から幼稚園で文字は教えているか?と質問があった。園では直接的には教えていないが、言葉を豊かにする活動をしている。教育要領や学習指導要領にて定められ、小学校でしっかり教えていくことだと伝えたい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。 ・読み聞かせや仲良し遊びなどを取り入れ、異年齢でのかかわりの場をもち、安心して心地よく過ごせる活動を展開する。 ・季節感を取り入れ、教育課程内の活動(主に歌など)との連動した活動を展開する。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して過ごし遊べる環境構成であったか、また、異年齢が交流できる遊びの様子や工夫などの、週案の振り返りによる評価。 ・季節感を取り入れた活動(主に毛糸遊びや折り紙や歌)や環境構成の工夫。 ・教育課程内の活動との連携を振り返り。 ・学校運営協議会や地域との連携による活動への参加率。
保護者アンケート	<p>⑭預かり保育(なかよしタイム)は教育時間終了後子どもが安心して過ごす場となっている。</p> <p>⑮預かり保育(なかよしタイム)は子育ての支援になっている。</p> <p>⑯子どもは預かり保育(なかよしタイム)での遊びやいろいろな人とのかかわりを楽しんでいる。</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の振り返りなどによる幼児理解をすすめ、安心安全な環境構成の見直しを行った。年少児参加率が高く、健康面を考慮し午睡の場を工夫や、年齢に応じた玩具の整備など行った。 ・教育課程を意識した活動内容(季節の歌、クラスで歌っている歌・七夕飾り作りなど)を取り上げた。 ・隣接する特養の行事や、学校運営協議会主催の行事など活動内容が多彩になるようにした。 <p>○保護者アンケート (%表示 : Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと思うとそう思う Dそう思わない)</p> <p>⑯A82・B16・C1・D1 ⑮A90・B7・C3・D0 ⑯A70・B24・C5・D1</p>				
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少児の参加率が昨年度より高い。家庭と連絡をとりながら個人に応じた午睡の場を設けたことは安心につながっている。 ・昨年度も行った特養の社交ダンス見学や学校運営協議会によるミニ運動会には園児の8割を越える参加があり、関心の高さと定着感が伺える。(アンケート⑯A82%・アンケート⑮A90%) ・異年齢での友達関係もでき、教育時間にもその良好な関係が表れている。 一方、参加人数が多い日など落ち着かない雰囲気を感じる子どももいる。預かり保育は遊戯室での活動のため、降園後の園庭開放で遊びたい子どももある。アンケートのCD評価につながっていると考えられる。 ・多様な遊びができるよう心がけているが細かな玩具の管理に課題がある。 ・長期休業期間中の預かり保育時間の教職員間・保護者間との連絡連携が滞らないよう綿密にしていきたい。 ・10月からの幼児教育無償化対象(新2号)への事務処理など保護者への説明や対応を丁寧に行っていく。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて遊べる玩具の配置の工夫 ・利用料金など事務処理の複数人での確認徹底 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の振り返りと幼児理解の検討 				
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムでのミニ運動会に大勢の子どもが参加し、楽しみにしていた様子が見られた。 今後も取り組みを継続していきたい。 ・無償化による事務なども影響があるのだとわかった。今後、預かり保育を含め無償化による影響はどうだろう。 				
最終評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td> <p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> </td></tr> <tr> <td>学校関係者評価</td><td> <p>学校関係者による意見・支援策</p> </td></tr> </table>	自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>	学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>				
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>				

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・個人懇談会・クラス懇談会・登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う。
- ・ほっこり子育てひろばを開き、保護者同士が、子育てのことを気軽に話せる場をつくる。
- ・教育相談（うさぎ組・ひよこ組）を開設し子どもと保護者が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場を提供し、子育ての喜びや不安を話せる場を作る。
- ・教育相談を広く発信し、地域の小規模保育園への参加を呼びかける。
- ・うさぎ組では、徐々に園生活を体験できる取り組みを行う。（自分のマークシールや個人ロッカーを決める・幼稚園ならではの素材での遊び・栽培活動・靴の脱ぎ履きやトイレ体験・弁当体験）

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の保護者との連絡・連携の振り返りと改善
- ・クラス懇談会への参加率
- ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加率
- ・教育相談活動の振り返りと、子育ての悩みなど相談内容や件数の把握
- ・地域の小規模保育園との連絡・連携と、2歳児の育ちについての学び、また、うさぎ組の活動内容の改善点
- ・教育相談活動の発信（チラシ配布・HP掲載）回数

保護者アンケート

⑯幼稚園の教職員に、子どものことや子育ての悩みについて気軽に話せる。

⑰幼稚園の教育相談は、地域の子育て支援に役立っている。

教育相談参加者アンケート

ア) うさぎ組・ひよこ組では、子どもが喜んで遊ぶ場があり、親も子も安心して過ごしている。

イ) うさぎ組・ひよこ組では、参加者同士や担当者に、子育ての楽しさや悩みを気軽に話したり、相談したりしている。

・教育相談に参加して、幼稚園がどのような生活を送っているのか知ることができる。

中間評価

各種指標結果

- ・日々登園時・降園時に子どもの様子を伝え、家庭からも聞く活動を継続し信頼関係を築いている。
- ・クラス懇談会参加：約8割
- ・ほっこり子育て広場9月までの5回実施：対象者の内7割参加
- ・教育相談で、排泄や食事についてテーマを設定した懇談の場を2回実施（27人程度参加）
- ・地域の小規模保育園の幼稚園への来園（延べ8回/9月まで）8月に小規模保育園研修訪問実施主に2歳児の育ちについて環境構成や家庭支援について学んだ。

・地域に教育相談活動の情報掲載チラシを毎月配布した。教育相談活動 HP掲載14回(10/①現在)

○保護者アンケート (%表示：Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと思うとそう思う Dそう思わない)

⑯A64・B29・C7・D0 ⑰A72・B27・C1・D0

○教育相談参加者アンケート(回答17人) (%表示：Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと思うとそう思う Dそう思わない)

ア) A82・B13・C0・D0 イ) A53・B47・C0・D0

自己評価

分析（成果と課題）

- ・担任を中心に日々保護者と子どもの様子や健康面など話し育ちを共有したり HPに園生活の様子を掲載し発信したりしている。アンケート⑯A64B29C7と、話はできるがまだ十分ではないと感じているようだ。また、個人、学年により偏りがあると感じるとの保護者意見もあった。
- ・教師の子どもへのかかわりが自分の子育てに参考になったと複数の保護者意見あり。

	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談登録者はひよこ組45人うさぎ組35人だが、毎回の参加は平均13, 4人程度。各家庭の生活や興味に合わせ本園の教育相談を利用している。参加者同士が子どもを見守りつつ親同士子育てや園生活への疑問などを話せる場となっている。(アンケート: アA82B13 イA53 B47) テーマを決めた座談会では子育ての悩みや楽しさを話し合えたが、改善の余地もある。 来園のきっかけはHPの他、地域配布チラシという人も複数あり、今後も地域への情報発信を継続したい。 小規模園での研修や教育相談への来園により2歳児の姿を知ことができ、うさぎ組やひよこ組の遊びの環境を見直す機会となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 降園時に子どもの言葉や具体的なエピソードを保護者に積極的に伝える。 小規模保育園との交流の継続 各学年のHP掲載頻度を同じようにする
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期保護者アンケートとの比較 教育相談の記録の振り返り 各学年のHP掲載頻度
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 温かい子育て支援が大事。一方で保護者が大人として子どもに範を示すよう促すことも大事。 教育相談時に絵本ボランティアも活動するようにしている。読み聞かせや見守りを通じて未就園児保護者と園の事や子育てのことで話すこともある。今後も安心できる、話ができる教育相談の場づくりに協力したい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(5) 地域とのかかわり(社会に開かれた教育課程)について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する特養施設への訪問などを通し、高齢者とかかわる場を設ける。 地域の交通安全にかかわる人を知り、安心安全な地域づくりの活動が行われていることを知る。 小・中学校との連携や交流や、学校運営協議会やPTAと連携した地域との活動(お茶会・もちつきなど)と、地域行事(ふれあい広場など)の案内や参加呼びかけ。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 特養訪問回数と高齢者とのかかわりの内容や子どもの姿からの振り返りと評価 学校運営協議会やPTAと連携した行事や、地域行事などから、子どもの姿や内容改善についての振り返りと評価。また、地域の幼稚園教育活動への意見

- ・小中学校への行事参加や子どもの姿の振り返りと評価

保護者アンケート

- ⑯幼稚園には学校運営協議会（みつばの森）があることを知っている。
- ⑰幼稚園や学校運営協議会、PTAが、地域と連携した活動（絵本ボランティア・夕涼み会・もちつき・お茶会など）は、子どもの経験を豊かにしている。
- ⑱幼稚園や学校運営協議会、PTAが、地域と連携した行事（元気フェスタ・盆踊り・学区のふれあい広場など）があることを知っている。

中間評価

各種指標結果

- ・特養訪問を年中年長児とも毎月1回ずつ行い、回を重ね訪問を楽しみにする声が聞かれる。
 - ・交通教室での地域交通安全推進活動委員との出会いや朝の交通安全活動参加者との挨拶ができた。
 - ・中学生と一緒に体操し、リレーを応援した。初めての出会いだったが手をつないでもらうなど、かかわる楽しさを感じた。
 - ・学校運営協議会、PTA、地域が連携した行事に多くの子どもが参加し、豊かな経験ができた。（アンケート⑯A79）
- 保護者アンケート（%表示：Aとてもそう思う Bそう思う Cどちらかと思うとそう思う Dそう思わない）
- ⑯A69・B27・C1・D0 ⑰A89・B11・C0・D0 ⑱A79・B19・C2・D0

自己評価

分析（成果と課題）

- ・特養訪問を初めて経験する4歳児はとても緊張していたが、高齢者の皆さんに拍手をもらい、歌を聴いてほしい気持ちになっている。5歳児も回を重ね、親しみを感じながら楽しんでいる。今後も手遊びなどを含め触れ合える場、気持ちが通い合う場になるようにしたい。
- ・5歳児の交通安全教室や朝の交通指導などに関わる地域の方を園児に紹介、挨拶したが、家庭には知られていなかった。
- ・学校運営協議会やPTAと連携し地域の行事に様々な形で参加し、子どもは楽しい経験をしている。“子どものために”という地域や保護者の思いがつながる場になった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・特養訪問では子どもと高齢者が触れ合える遊びを意識して取り入れる
- ・朝の交通安全活動の日や内容を保護者に発信する

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・特養訪問での子どもと高齢者とのかかわりからの幼児理解。
- ・交通安全活動を知らせる掲示

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・隣接する特養との交流はみつばの特長。今後もより良い交流を願う。
- ・地域の交通安全活動を知るのは良い取組。交通安全活動から…自転車後部座席の幼児ヘルメット着用をしっかり呼びかけたい。園児安全のため園や保護者の協力を願う。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	笑顔で元気に教育活動を行うために翌日に疲れを残さない働き方を一人一人が意識する
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な職員会議：終了時刻を設定して会議を始める。案件は事前に各担当がまとめ回覧しておく 計画的に校務支援員と連携した業務遂行のため、職員朝礼で全体の業務確認を行う 時間を意識した業務遂行：各々が業務にかかる時間の見通しと優先順位をつけ退勤時間を意識する
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や園内研修は設定どおりの時間で進められたか。案件は事前に提案できたか。 校務支援員と連携し、業務が偏ることなく再分配できているか　・残業時間の前年度比

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 会議や研修は概ね設定時間内に進んでいた。　・事前の案件回覧ができる。 校務支援員による教材準備などにより教材のバリエーションが広がった。印刷物補助により地域への配布物が予定より早めにできた。　・残業時間前年度比：9%増
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議や研修の効率的な開催ができるようになってきたが、詳細な情報共有に課題が残る。 校務支援員の印刷補助や地域への配布物準備がスムーズに行え、他の業務や教材研究に取りかかれ教育内容充実につながった。校務支援員への仕事依頼方法はより便利なよう改善したい　・一方、残業時間前年比は9%増だった。幼児理解に基づいた環境整備や教材研究等熱心に取り組んでいるが、業務の効率化を再度見直し残業時間減らす。
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 退勤時間を明確に知らせ、業務効率化への意識を高める。 校務支援員に教材作成など分かりやすく依頼する

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 前期に続き、昨年度との残業時間比
学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援員による業務軽減や教育内容の充実は喜ばしいが残業時数減につなげてほしい。 地域への配布物は今後も協力する。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策